

ねん がつようか
2020年3月8日
しじゅんせつだいにしゅじつ
四旬節第二主日
きくち いさおだいしきょう せつきょう
菊地 功 大司教 ミサ説教

すうじつ にち とうほく だいしんさいはつせい ねん けいか
あと数日で3月11日、すなわちあの東北での大震災発生から9年が経過
しようとしています。

ねんまえ じしん つなみはつせい すうじつご にち せんだい か ひがい
9年前、地震と津波発生から数日後の3月15日に仙台へ駆けつけ、被害
おお おどろ すうねん ちいき せいかつ もと もど
の大きさに驚きながらも、しかし数年もすれば地域の生活は元に戻る
かって そうぞう
だろうと勝手に想像していました。

たし せいび しゃかい おおわく ちいきふっこう じゅんちょう
確かにインフラの整備など社会の大柱としての地域復興は、順調に
すす み まちが きょうこう
進んでいるように見えることは間違いがありません。しかし、教皇フラン
さくねん がつ とうほく ひさいしゃ つど とく ふくしま げんじょう
シスコが昨年11月の東北の被災者との集いで、特に福島の状態に
かんれん い ちいきしゃかい しゃかい ふたた きず ひとびと
関連して言われた、「地域社会で社会のつながりが再び築かれ、人々
あんぜん あんてい せいかつ ほんとう ふっこう
がまた安全で安定した生活ができるようにならなければ」、本当の復興
な と ことば ところ おも
は成し遂げられないのだという言葉が、心に重くのしかかっています。

ねん むか まえ ひがしにほんだいしんさい な
まもなく9年を迎えるのを前に、あらためて東日本大震災で亡くなら
おお かたがた えいえん あんそく いの ひいらい よそうがい
れた多くの方々の永遠の安息を祈るとともに、あの日以来、予想外の
じんせい ものがたり きざ ひと かみ ぶか みて
人生の物語を刻んでこられたすべての人が、神のいつくしみ深い御手
つつ こ いの
によって包み込まれることを祈ります。

きょうこう とうきょう ひさいしゃ つど なか の
教皇フランシスコは、東京での被災者との集いの中で、こう述べてお
られます。

しょくりょう いふく あんぜん ばしょ ひつじゅひん そんげん せいかつ
「食料、衣服、安全な場所といった必需品がなければ、尊厳ある生活
おく せいかつさいけん は さいていげんひつよう
を送ることはできません。生活再建を果たすには最低限必要なものが
ちいき しえん えんじょう う ひつよう
あり、そのために地域コミュニティの支援と援助を受ける必要があるの

ひとり ふっこう ひと ひとり さい
です。一人で「復興」できる人はどこにもいません。だれも一人では再
しゅつぱつ まち ふっこう たす ひと てんぼう きぼう かいふく
出発できません。町の復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復
ゆうじん きょうだいしまい であ ふかけつ
させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です。」

きょうこうほんとう ふっこう てんぼう きぼう かいふく ゆうじん
教皇は、本当の復興のためには「展望と希望を回復させてくれる友人
きょうだいしまい であ ふかけつ の
や兄弟姉妹との出会いが不可欠」だと述べられました。もちろんいのち
いしょくじゅう しえん じゅうよう きょうこう
をつなぐために衣食住を整え支援することは重要です。しかし教皇
じゅうぶん してき いしょくじゅう
は、それだけでは十分ではないと指摘されているのです。衣食住の
じゅうそく くわ きぼう てんぼう かいふく ふかけつ してき
充足に加えて、「希望と展望の回復」が不可欠だと指摘されています。

きぼう てんぼう しぜん う きぼう てんぼう だれ
希望や展望は自然に生まれてはきません。希望や展望は、誰かがどこか
も あた きぼう てんぼう ひと
らか持ってきて与えることができるものでもありません。希望と展望は、人
ひと なか こころ なか う だ
と人とのつながりの中で、心の中から生み出されていくものです。

きょうかい ねんかん ひと ひと なか きぼう てんぼう う
教会は、この9年間、人と人とのつながりの中で、希望と展望を生
だ どりよく つづ おも
み出すための努力を続けてきたのではないかと、わたしは思っています。
ふっこうしえん いちばん はしら ひと ひと なか き
わたしたちの復興支援の一番の柱は、人と人とのつながりの中で、希
ぼう てんぼう う だ どりよく おも
望と展望を生み出す努力であったと思います。

きょうこう しとてきかんこく ふくいん よろこ の
教皇フランシスコは、使徒的勧告「福音の喜び」において、こう述べ
ています。
でむ ひと さ だ でむ
「出向いていきましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向
いていきましょう」

きょうかい かみ わたし あい つた
教会は、神が私たちのいのちを愛しているというメッセージを伝える
でむ きょうこう く かせ
ために、出向いていかななくてはならないと、教皇フランシスコは繰り返
しゅちょう
主張されます。

ほんじつ だいいちろうどく あたら とち でむ
本日の第一朗読では、アブラムが新しい土地へ出向いていくようにと、
しゅ よ もよう えが
主から呼びかけられた模様が描かれています。
う こきょう ちち いえ はな わたし しめ ち い
「生まれ故郷、父の家を離れて、私が示す地に行きなさい」

う こきょう ちち いえ あんじゅう ば
「生まれ故郷、父の家」は、アブラムにとって、安住の場です。しか
だんかい わたし しめ ち
しこの段階で「私が示す地」とは、いったいどこなのか、どんなところ
まった じょうほう あた くらやみ てさぐ の だ
なのか、全く情報が与えられません。暗闇に手探りで乗り出すように
い
と言われているようなものです。しかしアブラムは、「主の言葉に従って旅
しゅ ことば したが たび
だった」と記されています。主の呼びかけに信頼して、未知へと旅立った
しる しゅ よ しんらい みち たびだ
のです。それは単に思いつきではなく、アブラムの心に培われた信仰
たん おも こころ つちか しんこう
における神への信頼が、その決断の土台となっていました。
かみ しんらい けつだん どだい

かみ まね い おこな
パウロは、神がわたしたちを招き入れているのは、「わたしたちの行いに
よしん けいかく めぐ しる
よるのではなく、ご自身の計画と恵みによる」と記しています。
かみ まね たびじ しゅやく しゅ じしん
神によって招かれている旅路の主役はわたしたちではなく主ご自身であ
けいかく しんらい み よ
るのだから、その計画に信頼して身をゆだねよという呼びかけです。

しんらい かみ けいかく
それではその、わたしたちが信頼すべき神の計画はどこにあるのか。そ
かみ けいかく ふくいんしょ おんちち わたし あい こ わたし
の神の計画は、福音書にあるように、御父が「私の愛する子、私
こころ かな き い おんこ ことば おこな
の心に適うもの、これに聞け」と言われた御子イエスの言葉と行いに
めいじ
明示されています。

やみくも で つづ
わたしたちは、ただ闇雲に出て行ってさまよい続けるのではなく、わたし
しんらい ことば おこな みちび あゆ つづ
たちが信頼するイエスの言葉と行いに導かれながら、歩みをつづけます。
じしん ひび いの つう きょうかいきょうどう
そのためには、わたしたち自身が日々の祈りを通じて、また教会共同
たい てんれい いの つう わたし あい こ わたし こころ かな しゅ
体の典礼や祈りを通じて、「私の愛する子、私の心に適うもの」と主
い おんこ ことば おこな みみ かたむ なら
が言われた、御子イエスの言葉と行いに耳を傾け、それに倣わなけれ
うえ おそ かみ ひと あい
ばなりません。その上で、恐れることなく、神がすべての人へその愛とい

つくしみの手を差し伸べようとしている事実を伝えるため、出向いていく
きょうかい おも たびじ なか おお ひと
教会でありたいと思います。わたしたちはその旅路の中で多くの人と
であ てんぼう きぼう かいふく ゆうじん きょうだいしまい
出会い、「展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹」となりた
おも
いと思います。

きょうこう ふくいん よろこ しゃ
教皇は『福音の喜び』において、「すべてのキリスト者、またすべての
きょうどうたい しゅ もと みち しきべつ
共同体は、主の求めている道を識別しなければなりません、わたし
みな よ まね
たち皆が、その呼びかけにこたえるように招かれています。つまり、自分
かいてき ばしょ で ふくいん ひかり ひつよう すみ お
にとって快適な場所から出ていって、福音の光を必要としている隅に追
ひと とど ゆうき も まね よ
いやられたすべての人に、それを届ける勇気を持つよう招かれています」と、呼
びかけておられます。

きょうかい しゃかい ただなか やくわり おも
教会には、社会の直中であっていくつもの役割があると思います。も
ひとり ところ やす ば せいじゃく せいせい かみ
ちろん、一人ひとりの心の安らぎの場として、静寂と聖性のうちに、神
であ かみ たいわ ば ひとり であ いの
と出会い神と対話する場でもあります。一人ひとりのその出会いを、祈り
せいたいさいぎ ふか ば せいたい
のうちに、また聖体祭儀において深める場でもあります。また聖体のう
げんそん であ せいたいはいりょう つう ないてき
ちに現存されるイエスとの出会いと、また聖体拝領を通じて、内的に
いっち ば
キリストと一致する場でもあります。

どうじ きょうかい しゅ しょこくみん よ あつ じぶん
しかし同時に教会は、主イエスが「諸国民から呼び集められた自分の
きょうだい じぶん しんびてき こうせい からだ
兄弟たちを自分のからだとして神秘的に構成した」、キリストの体で
もあります。

きょうかい ひせき かみ しんみつ まじ
さらに教会は、「キリストにおけるいわば秘跡、すなわち神との親密な交
ぜんじんるい いっち どうぐ きょうかいけんしょう する
わりと全人類一致のしるし、道具」であると、教会憲章は記してい
ます。

じしん かみ ひと きょうかい め み きょうかい
キリストご自身が、神であり人であるように、教会にも目に見える教会

しよせいじん まじ れいてききょうどうたい げんじつしゃかい
と諸聖人との交わりにある靈的共同体があり、現実社会にあっても
きょうかい してきそくめん こうてきそくめん
教会には私的側面と公的側面があります。

しゃかい てんぼう きぼう かいふく ゆうじん
わたしたちはこの社会にあつて、「展望と希望を回復させてくれる友人
きょうだいしまい しゃかい でむ きょうかい おも
や兄弟姉妹」として、社会に出向いていく教会でありたいと思います。
きぼう てんぼう うだ みなもと おも
希望と展望を生み出す源となりたいと思います。

でむ きょうかい た あ たびだ おん
わたしたちは出向いていく教会として、つねに立ち上がり旅立つように御
ちち よ しみ たみ たびだ じゅんび
父から呼びかけられている神の民です。旅立つ準備はできているでしょ
かみ けいかく ゆうせん けつい てんぼう きぼう かい
うか。神の計画を優先させる決意はあるでしょうか。「展望と希望を回
ふく ゆうじん きょうだいしまい ころ
復させてくれる友人や兄弟姉妹」となる心づもりはできているでしょ
うか。

かみ ことば みみ かたむ みち せんたく
神の言葉に耳を傾けながら、ふさわしい道を選択することができるよ
せいれい みちび いの
うに、聖霊の導きを祈りましょう。